

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月 26日

【評価実施概要】

事業所番号	0174600312		
法人名	(有) ハタ介護ステーション		
事業所名	グループホーム我が家		
所在地	〒080-0053 帯広市新町西6丁目55番 (電 話) 0155-36-3604		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年2月19日	評価確定日	平成20年5月26日

【情報提供票より】 (19年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 13年 1月 23日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 1人, 非常勤 6人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円
敷 金	有 (円)	<u>無</u>	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,167 円 月 35,000円		

(4) 利用者の概要 (5月 1日現在)

利用者人数	9名	男性 4名	女性 5名
要介護1	0名	要介護2	2名
要介護3	5名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢	平均 82.1歳	最低 75歳	最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長屋内科胃腸科医院・フジ歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>当事業所は、市内中心部の西側の住宅街に立地し北側には帯広川が流れ、その堤防に沿って自然あふれる環境が広がっている。その堤防を散歩したり近隣の住民と親しく交流するなど地域にとけ込んでいる。職員と利用者が和気あいあいと生活し家庭的な雰囲気を有し、今後更に期待のできる事業所である。</p>

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 事業所の運営理念や役割について運営推進会議等の場で情報発信の兆しが見える。緊急時の対応についてはマニュアル等を活かし、常日頃からミーティングや会議等で話し合い、全職員の均質した対応に心掛けている。事業所外の研修の機会については、今後の取組みに期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価及び外部評価を実施する意義を運営者、管理者、職員は理解し、全員で自己評価を行い、サービス向上に努めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議開催時に評価結果や、サービス状況等についての報告を行っている。また、会議で出た意見等を事業所の運営に反映させている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理等について、家族の面会時に毎月報告をしている。 家族等からの意見や苦情については、管理者及び職員が対応し、運営推進会議等で話し合う機会を持ち、それらを運営に反映させている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に入会し、自治会や地域の行事に参加している。また介護保険やグループホームの説明を行う等、地域との連携を強化し交流が深まる取り組みを行っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家族主義」を基本とした人間関係を重視する生活の場としての、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のミーティングやホーム内の研修の場で話し合う等、全員で理念を共有し、その実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、自治会や地域の行事に参加している。また介護保険やグループホームの説明等を行い、地域との交流が深まるよう取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義を全職員は理解し、全員で自己評価を行い、サービス向上に努めている。また、外部評価の結果は職員ミーティングで報告し、具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議開催時に評価結果や、サービス状況等についての報告を行っている。また、会議で出た意見等を事業所の運営に反映させている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者と連絡を密に取り、ともにサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時等に利用者の健康状態や金銭管理等を報告している。また、体調に変化があった際には、その都度報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見や苦情については管理者及び職員が対応し、運営推進会議等で話し合う機会を設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来異動や離職はなく、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられる体制である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を実施している。しかし、職員の法人外の研修については計画策定はしているが、現状では業務が多忙であり、研修参加までには至っていない。	○	事業所外で開催される研修を、なるべく多くの職員が受講できる体制にすることが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は地域の同業者と交流する機会を持ち、勉強会や相互訪問等の活動を通じて、サービスの質の向上に取り組んでいるが、職員交流までには至っていない。	○	管理者のみならず、職員も連絡会を通じた交流や学習会の機会を持ち、サービスの質の向上に活かすことが期待される。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの利用に至るまでに、職員による家庭訪問などを実施している。また、職員や他の利用者、事業所の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を理解し共に過ごしながら、信頼関係のもとでお互いが協働し、支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人の思いを大切にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見を反映し、本人がより良く暮らすための介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行うとともに、変化が生じた場合は、随時、本人・家族と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況や要望に応じて、職員による受診支援や地域の認知症の相談援助を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じて、利用前からのかかりつけ医への受診支援を行っている。また、日常の健康管理をはじめ適切な医療を受けられるように協力関係を築いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を踏まえ、重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族、主治医等と話し合っ対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者及び職員は、利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないような言葉かけや対応を心がけ、記録等の個人情報の取り扱いについても同意書を取り交わし意識して対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを保てるよう配慮し、本人の希望を大切にした支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みを把握することに努め、個々の能力に応じて利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望や状況に合わせて、入浴を楽しめるように、職員が1対1で支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の自発性を大切にし、ドライブ・買い物・散歩等の外出や日常の家事や趣味など、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に沿い、買い物やドライブ・散歩等の外出の機会を作り、事業所の中だけで過ごさないよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間のみ施錠しており、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応マニュアルを職員に配布し、ミーティングや研修時に勉強するとともに、定期的に避難訓練を行っている。また、緊急時に近隣住民の協力を得るような取り組みをしている。	○	避難訓練の際には、地域の人々と協働で行うよう働きかけを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成する献立をもとに、食べる量や栄養バランス、水分量のチェックを行い、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた声かけや支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間においては一般的な家庭で使用しているような物品や装飾により、家庭的な雰囲気を作り、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや、思い出の品、写真などを飾り、本人が安心して過ごせるような空間となっている。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや、思い出の品、写真などを飾り、本人が安心して過ごせるような空間となっている。		

※  は、重点項目。